

## 強いチーム創りの着眼点

### 金の卵を産むガチョウ

ある農夫の飼っているガチョウが毎日一個ずつ金の卵を産み、農夫は金持ちになる。しかし、一日一個の卵が待ち切れなくなり、腹の中の全ての卵を一気に手に入れようとしてガチョウの腹を開けてしまう。ところが腹の中に金の卵はなく、その上ガチョウまで死なせてしまう。(Wikipedia より抜粋)

このあらすじは『金の卵を産むガチョウ』で、欲張りすぎは良くない結果をもたらすことを教える有名な物語です。

農夫はどうすればよかったのかを考えると、

- ①金の卵を産んでくれるガチョウを大切に育てる
- ②一日一個ずつ産まれる金の卵を収入の基本として生活する（入るを量って、出る制す）
- ③このガチョウの後継を産み育てる

の3点が考えられそうです。

また、農夫はなぜガチョウの腹を開けてしまったのでしょうか。金の卵を手に入れる前の農夫は貧乏でした。金の卵を手にしたことで、農夫は日に日に経済的に豊かになっていきます。以前とは比べ物にならないくらい贅沢な暮しができるようになりました。農夫はこの生活に飽き足らず、もっと豊かになりたいという欲望にほだされ、ガチョウの腹を割いてしまったのです。

この『金の卵を産むガチョウ』の物語を題材にして企業内研修をやってみると、色々な事が議論できます。

例えば、「金の卵を産むガチョウを手にした農夫が、腹を開けること以外にしていまいそんな失敗を想定してみよう」という題で議論すると、

- ①この農夫のようにガチョウの腹を開けるような愚行はしないにしても、金の卵が毎日産れるのを当り前に思い、ガチョウの世話をしなくなり死なせてしまう。
- ②金の卵を農夫だけが独り占めしたため、ガチョウはそのことに嫌気がさして逃げ出してしまう。

というような回答が出されます。

そして、一通りの議論を重ねた上で、次のように質問してください。

質問①：金の卵を産むガチョウは何を指しているのか

質問②：農夫は誰を示唆しているのか

質問①については、大半の方が「企業」と回答するでしょう。質問②は、「企業で働く人」となるのではないのでしょうか。実は、質問②の回答の仕方が鍵を握っています。それは、「農夫は、私を指しています」と言える社員が何人いるかが重要だからです。現下の経営環境を乗り越えるには、全社員が当事者意識を持って業務に取り組まねばならない。この一言

に尽きます。従って、ガチョウの腹を割いてしまった農夫を嘲笑して他人事と捉えているような社員がいては、事は好転しないのです。農夫の愚行を自分に置き換えて自省し、ガチョウの育成に全身全霊を打ち込む決意と行動が伴わなければ、企業も、そして自分自身にも明日はないのですから。

株式会社アッシュ・マネジメント・コンサルティング  
代表パートナー 平堀 剛